



キハ183系 特急オホーツク号 石北線 石北峠 2008 (平成20) 年10月13日 撮影

ネットワーク構築実装計画

オホーツクATネットワークはマーケティング戦略のかなめとなります。本計画は地域観光振興、JR石北線の存続、そして人口問題対策を目的としています。

石北沿線ふるさとネットワークが中心となり、関係機関との連携を深めながら、オホーツク地域の魅力を最大限に引き出すためのプロジェクトを展開していきます。

本プレゼンテーションでは、計画の背景、目的、実施内容、そして期待される成果について詳細にご説明いたします。

令和7年5月13日

石北沿線ふるさとネットワーク
石北本線利活用部会長 表 宏樹
副部会長 逢坂 信治

本プロジェクトの経緯と背景

1 目的の設定

地域の観光振興、JR黄色線区・石北線の存続のための乗客増加策、人口問題対策などを目的として、様々な試案を積み重ねてまいりました。

2 資料の作成

「オホーツク観光の未来～流氷観光の次なる新たな事柄を創造する」
「アドベンチャートラベルで地域を活性化する」「オホーツクアドベンチャートラベルの課題と対応」などの資料を作成しました。

3 発信元の確立

石北沿線ふるさとネットワーク（代表 長南進一）が中心となり、機関決定後に公表します。同ネットワークが主体となって、プロジェクト発足に向けた地道な折衝活動を行ってまいります。

本プロジェクトは、オホーツク地域の魅力を広く発信し、持続可能な観光振興を実現するための重要な取り組みです。地域の皆様のご協力とご支援をいただきながら、着実に前進してまいります。





実行計画の具体的アプローチ



実施組織の立ち上げ

大雪国道広域観光推進協議会を参考に、本プロジェクトに賛同する皆さんを募り、世話人会を発足させます。事務局は北見市観光振興室を想定しています。



実行計画の作成

関係者・関係機関が集い、各種打ち合わせ・ワークショップ・フォーラムなどを実施し、その具体案を作成します。多様な視点を取り入れた実効性のある計画を目指します。



資金計画の作成

国土交通省・観光庁補助事業（コンテンツ造成等、コンテンツ事業者・ガイド等、地域の受入環境整備）、公益財団法人はまなす財団（支援事業）などを窓口行政機関からアプローチします。



グループウェアの検討

ベンダーが市内で、導入サービスやアフターサービスが充実したアプリケーションを選定します。円滑な情報共有と連携を実現するためのデジタル基盤を整備します。

これらの施策を段階的に実施することで、持続可能なネットワーク構築を目指してまいります。各段階での成果を丁寧に検証しながら、必要に応じて調整を行います。

オホーツク A T ネットワークのイメージ

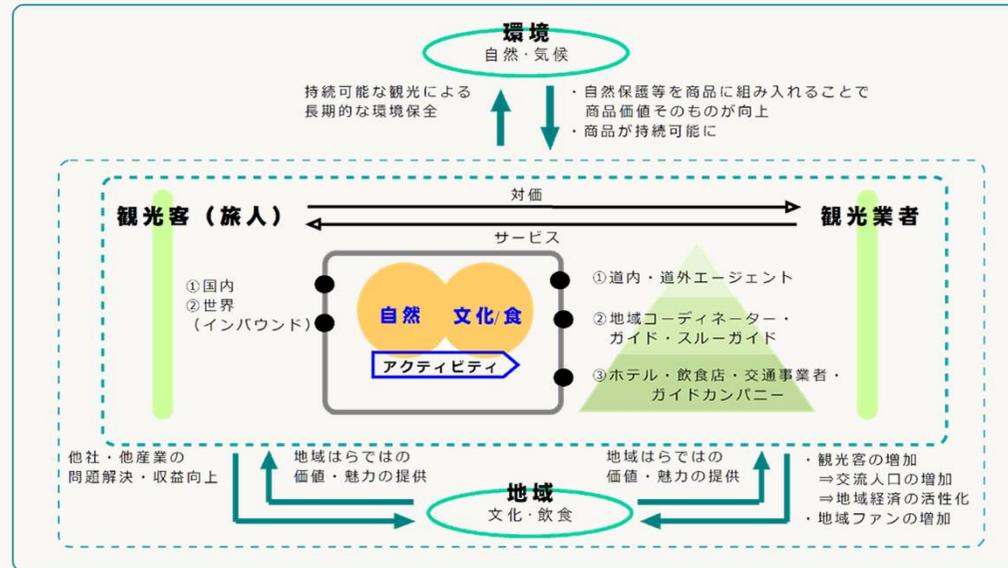


図 北見・オホーツク アドベンチャー トラベル ネットワーク グランドデザイン

地域観光拠点

北見市、上川町、温根湯温泉、層雲峡などの拠点を有機的に結びつけ、面としての観光魅力を創出します。各拠点の特色を活かしながら、地域全体の魅力向上を図ります。

人材ネットワーク

地域のガイドや事業者、行政担当者など、多様な人材のネットワークを構築します。定期的な交流会や研修を通じて、人材育成と連携強化を図ります。

交通ネットワーク

石北線を中心とした交通ネットワークを整備し、観光客の移動をスムーズにします。鉄道と他の交通手段との連携を強化し、シームレスな移動環境を実現します。

アドベンチャーコンテンツ

オホーツク地域の自然環境を活かしたアドベンチャー旅行のコンテンツを充実させます。四季折々の体験プログラムを開発し、リピーターの獲得を目指します。

このネットワークを通じて、オホーツク地域の観光資源を最大限に活用し、魅力的な観光地域づくりを推進します。地域内の多様な主体が連携することで、相乗効果を生み出すことが期待されます。

グループウェアの検討

ノーコード人材育成で 地域企業のデジタル化を 推進せよ! <参加費>無料

内閣府デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）
「テレワーク人材の育成による進出企業の定着と地域のデジタル化事業」

こんな地域の中小企業におすすめ!

DXと言われても何をしたいかわからない

新しいシステムの構築にコストをかけられない

デジタルに詳しい人材が社内にはいない

日時 **2月13日(木) 14:15~16:15**

場所 **KITAMI BASE**

(北見市北2条西2丁目8)

現地 最大20名

オンライン ZOOMウェビナー



プログラム

14:15~14:30 主催者挨拶・オホーツクバレーについて
14:30~15:00 ノーコード人材の育成と活用(受講生による成果発表含む)
15:00~15:30 【基調講演(リモート参加)】
サイボウズ株式会社 代表取締役社長 青野 慶久氏
テーマ1 [中小企業におけるDX化の進め方]
15:30~16:15 トークセッション
テーマ2 [ノーコードツールと人材活用がもたらすDXの可能性]

登壇者

サイボウズ株式会社 代表取締役社長 青野 慶久氏
株式会社ZooosJapan 代表取締役 渡部 佳嗣氏
株式会社ロジカル 代表取締役 西野 真嗣氏

ファシリテーター

株式会社ワイズスタッフ
株式会社テレワークマネジメント
代表取締役 田澤由利氏

詳細とお申込みはこちら

締切

2月12日(水)

WEBサイトよりお申し込みください

<https://www.ystaff.co.jp/kitamid0213/>



文系管理職なのに~

CMでお馴染み。『キントーン』
のサイボウズ株式会社
青野慶久社長が基調講演

お問い合わせ先 株式会社ワイズスタッフ TEL.0157-61-5012

【主催】北見地域DX推進ラボ

cbato.com 稼働中です。こちらでもぜひご利用下さい。

2021.02.05

(アプリケーション選択の参考資料
R07/04/09)

A Tコンテンツのブラッシ

自然体験プログラムの充実

オホーツク地域の豊かな自然環境を活かした体験プログラムを開発します。四季折々の自然現象を観察するツアーや、環境保全活動と組み合わせたエコツーリズムなど、多様なプログラムを提供します。

ガイド育成と質の向上

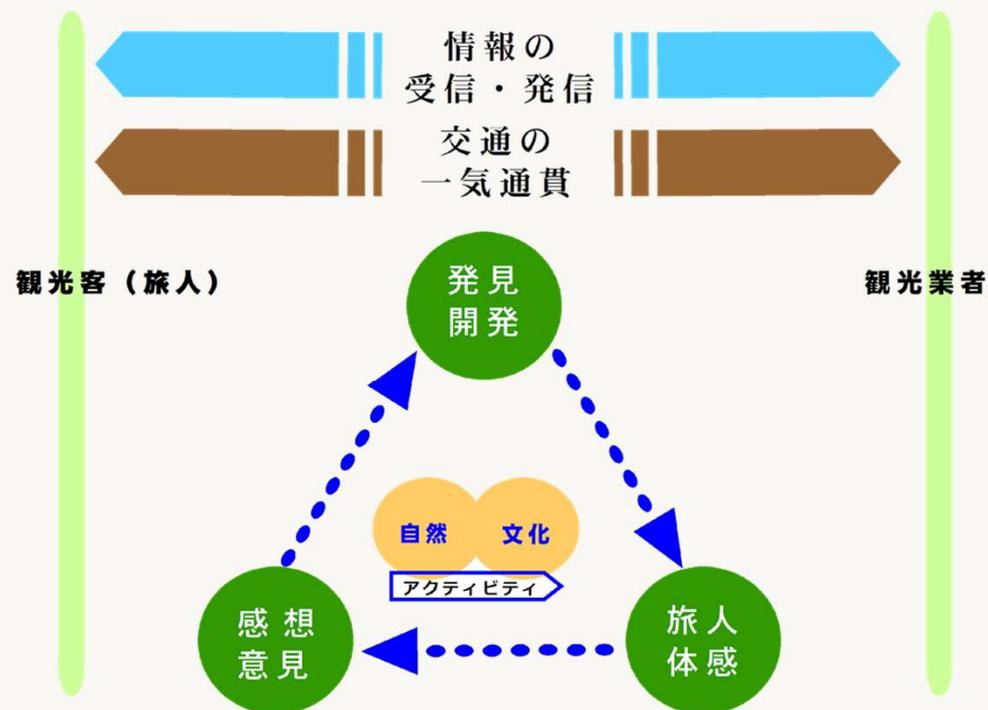
質の高いガイドを育成するための研修プログラムを実施します。自然環境や歴史文化に関する知識だけでなく、安全管理やホスピタリティなど、総合的なスキルを持つガイドの育成を目指します。

文化交流の促進

地域の歴史や文化を体験できるプログラムを充実させます。アイヌ文化や開拓の歴史、地域の食文化など、オホーツク地域ならではの文化的要素を取り入れた体験を提供します。

デジタル活用の推進

最新のデジタル技術を活用し、体験の質を高めます。ARやVRを活用した体験コンテンツの開発や、多言語対応のアプリ導入など、時代に即したサービス提供を目指します。



これらの取り組みを通じて、オホーツク地域のアドベンチャートラベルコンテンツの魅力を高め、国内外からの観光客誘致につなげます。常に顧客ニーズを把握し、継続的な改善を行うことで、持続可能な観光地域づくりを実現します。

参考事例：北見ツーデーマー

歴史と実績

2003（平成15）年に始まった北見ツーデーマーチは、今年で38回目を迎える長寿イベントです。駅南多目的広場を起点に、若松大橋、端野屯田の杜公園などを巡るコースが設定されています。

人と人のつながり

筆者の体験談にあるように、見知らぬ旅人が声をかけ、励まし、随伴するといった心の交流が生まれるイベントです。こうした交流こそが地域の魅力を高め、リーダーを生み出しています。

地域資源の活用

北見の美しい自然景観や街並みを活用し、歩くことで地域の魅力を再発見できるイベントとなっています。この事例は、地域資源を活かしたアドベンチャートラベルの好例といえます。

北見ツーデーマーチの成功は、地域住民の協力と参加者同士の交流が生み出す価値を示しています。オホーツクA Tネットワークでも、こうした人と人とのつながりを大切にしたコンテンツづくりを進めていきます。



美しいオホーツクに2DAYマーチが響きます。

第38回 でっかいどうオホーツク Sekkaku Waik Wakka Wildflower Park

北見ツーデーマーチ

2025 6/21±22日

大人／2,500円（当日申込 大人2,700円）
北見市民／1,200円
高校生以下／無料

ファミリー・キッズコース 4km
大人……1,200円
高校生以下……無料

サラマ湖
ワッカ原生花園を
訪ねるみち 2025 6/23月
「せっかくウォーク」
参加料/お一人…3,500円
[美しい日本の歩きたくなるみち]
500選認定コース(01-11)～

●日本マーチングリーグ公式大会 ●北海道マーチングリーグ公式大会
●オールジャパンウォーキングカップ北海道認定大会
●国際・日本市民スポーツ連盟公認大会
●美しい日本の歩きたくなる道500選 認定コース(01-04)
●ジャパンルディック・ウォークプレミアムリーグ認定大会
■主催：でっかいどうオホーツク北見ツーデーマーチ実行委員会

計画の成功イメージ



心豊かな地域社会

人々の交流が盛んで、心の豊かさを実感できる社会の実現



経済的成長

観光収入の増加による地域経済の活性化と雇用創出



交通網の維持発展

石北線の乗客増加による継続運行の実現



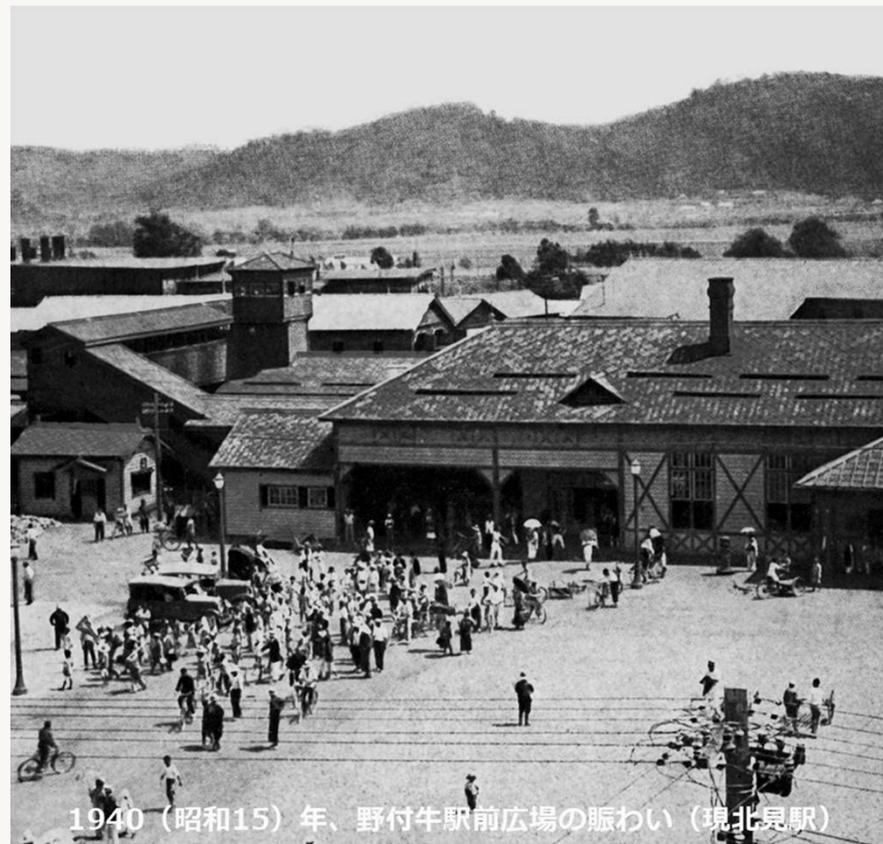
人口問題への対応

関係人口の増加と定住促進による地域の持続的発展



地域連携の強化

中核都市と周辺市町村の相互連携による
観光資源開発



1940（昭和15）年、野付牛駅前広場の賑わい（現北見駅）

本計画の実施により、オホーツク地域は観光振興を通じて経済的な成長を遂げるとともに、人々の心の豊かさを育む地域社会の実現を目指します。中核都市と周辺市町村が相互に連携し、それぞれの特色を活かした観光資源の開発を進めることで、地域全体の魅力を高めていきます。

石北線は多くの旅行者に利用され、持続可能な運行が実現します。観光を起点とした地域活性化により、人口減少問題にも対応し、豊かで活力ある地域社会の構築を目指します。